

透析医療は工学技術を医療に応用した治療の一つであり、その技術が透析医療を進歩・発展させてきたといっても過言ではない。血液の体外循環制御技術、透析膜における物質や水分の移動・分離技術、透析装置・システムなど、これらの医工学技術の進歩によって現在の透析医療の技術的基盤が確立された。わが国における透析医療技術は世界のトップレベルにある。

さらに、透析中の不均衡症候群の予防、モニタリング技術の向上、透析液管理の向上、装置の自動化・省力化、通信システムの向上など、患者のQOLの向上や治療の安全性と効率性を向上させる技術が最近利用できるようになってきた。

本特集では「透析医工学の最前線」と題し、初めに透析医療技術の進歩として近年患者数が増え続けているオンラインHDF、I-HDFについて、

次に透析関連技術の進歩として透析装置標準化の必要性、透析装置の自動化・省力化の最前線、腹膜透析における遠隔医療、透析液排液モニタの有効活用、レーザ血流計の有効活用、体内水分組成モニタを利用した水分管理、求められる透析液のシステム管理、透析液成分濃度測定装置の認証制度、部門システムと電子カルテの連携、通信共通プロトコルの有用性と、コラムにて透析医療におけるビッグデータの可能性を、それぞれのご専門の先生方にわかりやすく解説いただいた。

この内容は現在の透析医療における透析医工学技術の最前線である。これがより良い透析医療を実践するために役立てれば幸いである。

山下芳久

(本特集共同企画：峰島三千男，花房規男)

2019年(Vol. 35)特集のご案内

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| No.① 透析患者の糖尿病管理の新展開 | No. 6 AKI診療のエビデンスと課題 |
| No.② 透析患者における電解質・酸塩基平衡異常—透析液を含めて | No. 7 CKD患者におけるがん化学療法—透析患者を中心に〔増刊号〕 |
| No.③ 慢性腎臓病の看護実践をリフレクションする | No. 8 既存のガイドラインを透析患者にどう活用するか |
| No.④ 透析患者の残腎機能 | |
| No.⑤ 透析医工学の最前線 | (既刊は○) |

臨牀透析® Vol.35 No.5

© 2019年 5月 10日発行
定価：(本体 2,600円＋税)

年間予約購読は前金にて弊社あるいは書店宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、弊社または書店までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail dialysis@nmckk.co.jp

URL <http://www.nmckk.jp>

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 シナノ印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(☎ 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／株式会社 文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1 電話(03)3814-8541